



2020~2021 年度
大船渡西ロータリークラブ会報

七福人



RI 会長テーマ

会 長 高木 久子
副会長 齊藤 俊明
幹 事 山口 徹

= 会長指針 =

途中困難最後必勝

．．． 例 会 記 録 ．．．

11月第2週例会 2020年11月12日(木)

ソング : 奉仕の理想 ボックス : 27,000円 (報告者 門田 崇会員)
本日出席率 : 68.18% 前回修正後90.91% (メークアップ12名) (報告者 紀室綾子会員)

★ 会長の時間 : 高木久子会長



先日事務局にこのようなお手紙が届きました。

相模原市在住「大船渡にオーケストラを作る会」代表桑原裕子さんからで、長年の夢であった「大船渡にオーケストラを作る会」を立ち上げ、市長さんからも支援をして頂ける手配になった旨が記されてありました。東京より講師を派遣し、子供達に月に一度、1人2時間技術指導をしてもらっています。

現在25人程の会員が集まって合奏の練習をしています。

遠西ロータリークラブに、スポンサーになってほしいとの手紙の内容でしたが、理事会の決議により、クラブとしてのスポンサーにはできない。個人個人の方たちにお任せするということになりました。

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

1 ガバナー事務所より

- ・創立50周年に関するガバナー月信掲載原稿とスナップ写真提出のお願いが届いています。 締切 12/3
- ・青少年交換プログラム中止のお知らせが届いています。
- ・ZOOMによるRLI研修パートI参加者募集が届いています。
日時 12月12日(土)・19日(土) いずれも13時~16時
先着36名 各クラブ4名を限度 テキスト代 1,000円 締切 11/25

◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

フリーアワー : 自然電力株式会社様による講和

◆ 講師：長谷川雅也様



ご挨拶

はじめまして。自然電力株式会社の代表取締役、長谷川雅也と申します。このような機会を頂戴し、誠にありがとうございます。本日は皆様に、私たちが行っている「再生可能エネルギー」事業についてご説明させていただきます。

本題に入る前に、ロータリークラブと自然電力との関係についてお話させていただきます。

弊社の本格的な太陽光発電所の第1号は九州で、本店も福岡に置いておりますが、あちらで大変お世話になっているロータリアン（パストガバナー）の方に、大船渡でプロジェクトを進めるにあたり4年前にご相談に上がったところ、「大船渡には濱守さんがいる」とご紹介いただきました。その時から濱守パストガバナーには多大なご支援を頂いております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

◆ 自己紹介

私は栃木県の佐野市で生まれ、豊かな自然に囲まれて育ちました。社会人になってからは、コンサルティング業界で激務に追われる日々を送ります。仕事の合間をみつけては、海でサーフィンをする事、雪山でバックカントリーを楽しむことに夢中になりました。子供の頃のように自然の中で過ごすことで幸せを感じる事ができたのです。

そんなある日、『不都合な真実』という映画を観ました。人間の経済活動が地球に多大なダメージを与えているという衝撃的なデータ。気候変動が危機的な状況になり、とても生活が維持できないような状況になるという検証。どれも非常に強く印象に残りました。

このままだと自分たちの子供や孫の代には、海面上昇で多くの島国が海に沈み、気温上昇により食料もなくなる、そんな恐ろしい未来が頭をよぎりました。ある日、サーフィンをしながら傍らでまわる風力発電施設を目にした時、「事業というものは成長させればさせるほど、環境に負担がかかる。しかし、再生可能エネルギーの事業はその逆で、事業を通して自分の子供や孫とサーフィンを楽しむ未来を、今動き出せばまだ掴むことができる」ということに気づきました。そこから再生可能エネルギー業界に足を踏み入れます。

◆ 会社紹介

2011年3月に東日本大震災とそれに伴う福島第一原発事故を目の当たりにし、「自分たちの未来に責任を持てるのは自分たちしかない」と痛感し、当時勤めていた風力発電事業会社の仲間3人で自然電力を立ち上げました。

来年の6月で設立10周年を迎えますが、今では世界中から300名もの仲間が集まり、発電所の開発から建設、運営保守まで一貫して行っています。原発1基分に相当する再生可能エネルギーの開発に日本を含む9カ国で携わっています。

「青い地球を未来につなぐ」という目的にむかって、行動していくことを会社として大切にしています。そのために、様々な立場の方々を仲間巻き込みながら「自然エネルギー100%の世界を共につくる」ことを目指しています。

◆気候変動と地球温暖化

では、なぜ青い地球のために再生可能エネルギーが必要なのか。簡単に気候変動と地球温暖化についてご説明します。

近年頻発する大型台風や豪雨などの異常気象をはじめとした気候変動が世界中で起きています。そしてその理由として挙げられる地球温暖化の最大の要因は二酸化炭素の増加と言われています。このまま地球温暖化が進めば、岩手県では年平均気温が100年で約4.6度上昇するという調査結果も出ています。

そんな地球温暖化の要因となっている二酸化炭素はどこから排出されているのか？実は、石炭や石油といった化石燃料を燃やしてエネルギーに変える時、最も多く発生します。

家庭からの二酸化炭素排出量に着目すると電気が46.7%をしめます。電気を石炭や石油由来のエネルギーから再生可能エネルギーに変えることが二酸化炭素の排出を大幅に減らし、持続可能な未来をつくるカギになります。

この脱炭素の世界的な動きに遅れをとっていた日本ですが、菅首相が温室効果ガスを2050年までに実質ゼロにすることを先日発表しました。岩手県でも30年度までに再生可能エネルギーによる電力自給を65%まで高める方針が出されました。これから再生可能エネルギーへの転換はますます加速すると思われま

◆地域における再生可能エネルギーの役割

次に、地域にとって再生可能エネルギーがどのような存在になり得るのかお話しします。

大船渡市は今から40年後には1.6万人まで人口が減ると言われています。地域の人口減少は税収減に繋がり、行政サービスの低下や市民負担の増加を引き起こす原因となります。

私たちは再生可能エネルギーを地域の街づくりや経済を安定させるための手段として活用していきたいと考えています。地域で発電し、発電した電気を地域に供給する電力会社を立ち上げ、そこで得られる利益を街づくりに活かす。

具体的な事例として、長野県小布施町で地元ケーブルテレビ企業と小布施町とで地域新電力会社「ながの電力」を設立しました。エネルギーの地産地消を目指して小水力発電所を建設。地域の店舗やご家庭で再生可能エネルギーの電気を使っただき、幼稚園や老人福祉センターなどに太陽光パネルを設置し、施設での使用電力の一部を賄っています。これからは通信の力をつかった街づくり事業にも取り組んでいきたいと考えています。

また、熊本県合志市では、合志市内に建設した太陽光発電所の年間売上高の5%を合志市の農業へ還元。農地の維持管理や、地域の特産品をつかった商品づくりに活かしています。

先月には合志市と災害協定を締結しました。太陽光パネルを蓄電池と合わせて設置することで非常用電源としても活用でき、特に災害時にみなさんのお役にたつことができます。今後、合志市で災害が発生した際には、蓄電池システムや簡易太陽光電池等の備品の提供のほか、子ども・若者の教育環境、心のケアに関する専門の民間団体の紹介や支援に必要な物資の提供を行います。

大船渡市においても、再生可能エネルギーを通じてどのような取り組みができるか検討しております。何かご期待を寄せていただけるようなことがありましたら、ぜひお声がけいただけますと幸いです。

◆最後に

なぜ自然電力が再生可能エネルギー事業に今、取り組むのか。次のような言葉でまとめることができます。

「今日を生きる世代が、地球温暖化の被害を受ける最初の世代であり、壊滅的な結果を避けるための策を打てる最後の世代である。」(アントニオ・グテーレス国連事務総長)

将来を考えたとき、わたしたちにしかできないことがあります。自分たちができることに最大限に取り組み、次世代にこの青い地球のバトンを渡していきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。